

平成 22 年度(2010 年度) 事業報告書

LOOB JAPAN/LOOB Inc.



<http://loobinc.com/index.html>



目次

1. 概況経緯
2. 実施体制について
3. 事業に関する報告
 - (3-1) 途上国における国際協力・国際交流・青少年育成プログラムの実施
(A.ワークキャンプ、B.マングローブ C.ごみ投棄場支援)
 - (3-2) 途上国の子ども達への教育・医療支援
(A.教育サポート、B.医療サポート)
 - (3-3) 途上国の困難な状況にある地域・世帯への物資支援
(A.物資・衣類支援)
 - (3-4) 国際理解のための日本文化・海外文化の普及
(A.英語研修&ボランティア)
 - (3-5) 国際協力および国際交流のための募金活動と広報の実施
(A.国際協力イベント、B. フェアトレード、C.説明会・交流会、D. カレンダー)
 - (3-6) ニュースレターの発行
4. 助成金・受賞実績

1. 概況経緯

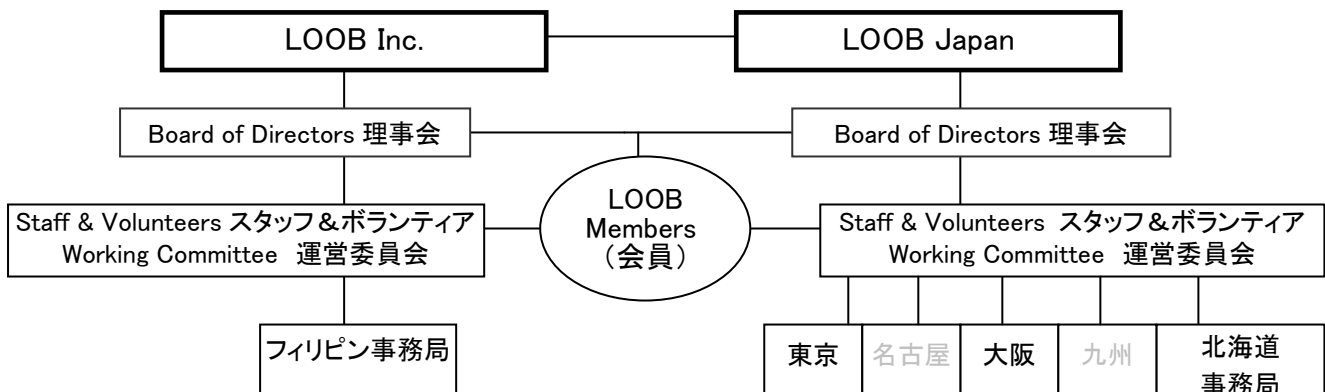
LOOB は、2001 年の発足以来、日本とフィリピンの文化的・教育的な人的交流、および現地の低所得者層を対象とした地域開発、教育・医療支援などの活動を行ってきました。

2010 年は、LOOB が力を入れているワークキャンプ&スタディツアー事業を 8 回実施し、多くの日本人・フィリピン人・韓国人が国際的な関心事を学びながら、ステイした地域に貢献することができました。また、前年にスタートした小学校での食育事業や、ごみ投棄場のラーニングセンター事業では、2010 年に予算を拡大して地域の方々の利用を増やすことができました。2010 年は新しいプロジェクトの立ち上げがなかった代わりに、既存の事業内容をじっくりと深めることができた1年だったと思います。

本報告書を通して、一人でも多くの日本人の方に LOOB の活動とその成果を知って頂ければ幸いです。今後も日本フィリピンの国際理解や青少年育成活動を通じて、相互の国の発展につなげていきたいと思っています。応援宜しくお願いします。

2. 実施体制について

LOOB Organizational Chart (2010 年 12 月現在)



【LOOB 日本事務局】

非専従スタッフ 小林千恵子 (LOOB JAPAN 監事、北海道)
(東京・大阪ブランチは、各 10 数名の LOOB JAPAN 理事&運営委員が構成)
*メンバーの就職などにより、名古屋と九州は事実上、活動停止となりました。

【LOOB フィリピン事務局】

専従スタッフ JOHN LOOT (LOOB Inc. 理事長)
専従スタッフ 小林幸恵 (LOOB JAPAN/LOOB Inc 代表理事)
専従スタッフ ROY TONDO (LOOB Inc. プログラムセクレタリー)
(日本人ボランティアスタッフ2~4名)、(フィリピン人ボランティア約 30 名登録)

3. 事業に関する報告

(3-1) 途上国における地域協力・交流・青少年育成プログラムの実施

(3-1-A) ワークキャンプ事業

LOOBが設立当初から力を入れているプログラム。それは、ホームステイをしながら地域の課題やフィリピンの生活文化を学び、ワーク作業で実際に地域に貢献する「ワークキャンプ」です。2010年は、学生団体とのコラボ2回を含む計8回のワークキャンプを開催し、日本人79人、フィリピン人50人、韓国人22人の約150名が現地で活動を行いました。ワークキャンプの事業収入は、総収入の52%を占め、そのうち、現地で実際に支出されるのは60%程度です。団体の理念においても、財政面においても、LOOBの活動の重要な柱となっています。

1. 第35回日韓比キャンプ(第2回PJKキャンプ):

2010年2月15日～2月23日

2回目となる日韓比(PJK)ワークキャンプは、前回と同様にバロタックビエホ町ヌエバセビア村で開催した。3カ国から30名ほどが集まり、海洋資源の再生を目指して、マングローブ植林を行った。厳しい暑さだったが、3日間でBakhawとPagatpatの2種類、計7,200本を植えた。

《詳しくはこちら↓》

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/35pjk/rep.html>



2. 第36回イロイロ市キャンプ(第2回ナバイスキャンプ):

2010年2月25日～3月8日

ゴミ投棄場に隣接するナバイス村で、就学前の子どもが通う保育所(デイケアセンター)を建設した。参加者数が少なかった分、一人一人が力を発揮して完成させることができた。内装や設備などは村の自治体が引き受け、キャンプ終了から3か月後の2010年6月から実際に子ども達に利用されている。《詳しくはこちら↓》

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/36wc/rep.html>



3. 第37回パナイ島ワークキャンプ:

2010年3月11日～3月23日

村の母親たちの裁縫グループ「プロセス」のための作業場を建設した。この作業場によりプロセスのメンバーが共同で作業できるようになるはずだったが、受注が少なく、2010年末時点で、裁縫の作業場としては本格的に利用されていない。LOOBの第2ベースとしては有効利用されているといえる。

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/37wc/rep.html>



4. 第38回ギマラス島キャンプ(第4回無人島キッズキャンプ):

2010年4月29日～5月5日

ジャングル、漁村、ゴミ山という3つの異なった地域から48名の子どもが集まった。日比の青年リーダーの下で6班に分かれてテント貼りや野炊をこなし、美しく厳しい大自然の中で共同生活を行った。またギマラス島はマンゴーの名産地ということで、農園でのマンゴー狩り(エコツーリズム)も実施した。《詳しくはこちら↓》

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/38wc/rep.html>



5. 第39回日韓比キャンプ(第3回PJKキャンプ):

2010年7月24日～8月1日

バロタックビエホ町ヌエバセベリア村で日韓比の参加者約30名と村人が共同でマングローブ5,245本を植樹した。キャンパー主催でスポーツ交流を行ったり、日本と韓国の文化を小学校で紹介したり、またホームステイの家族を招待して三カ国の料理をふるまったりと楽しい交流ができた。《詳しくはこちら↓》

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/39pjk/rep.html>



6. 第40回イロイロ市キャンプ(第3回ナバイスキャンプ):

2010年8月6日～8月17日

ナバイス村の小学校の排水溝を敷設した。完成することができなかったため、残りは住民とLOOBが引き継いだ。もう一つ、前回のキャンプで建設したダイケアセンター内にトイレを設置した。ダイケアセンターは6月から一部利用されており、10月の開設式の後、園児たちに正式に利用されている。

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/40wc/rep.html>



7. 学生NGO「ALPHA」学校建設ワークキャンプ

2010年8月17日～8月31日

パナイ島ナティビダッドで3年目(3回目)となるキャンプでは、ナティビダッド小学校に3つ目となる教室を建設した。これで現在は計4つの教室となり、全学年が勉強できるようになった。教室が増えたことで、教育省から派遣される教員数も増え、児童の教育環境を大幅に改善することができた。

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieups/realpha.html>



8. 国際共働「ISAP」ワークキャンプ

2010年9月6日～9月12日

学生団体 ISAP との初コラボ・プロジェクト。小学校での環境教育、教育事情インタビュー、マングローブ植林メンテナンス、フィリピン大学(UP)学生との交流、学校給食での歯磨き指導、子ども達とスポーツ交流などを行った。

<http://www.loobinc.com/WORKCAMP/tieups/reisap.html>



(3-1-B) マングローブ植林



マングローブは海水と淡水が入り交じる沿岸に生育する植物群です。海と森の2つの生態系を持ち合わせ、二酸化炭素を大量に吸収するなど、生態系にとって重要なはたらきをしています。フィリピンでは100年前に50万ヘクタールあったマングローブ林が、人間の生活のため伐採され、現在では3分の1以下に減少してしまいました。

- ▶ 《LOOBの累計植樹数》 LOOBは、2006年8月にギマラス島南西沖で発生した重油タンカー沈没事故をきっかけに、フィリピンの環境保全と啓蒙を目的として、ワークキャンプの中でマングローブ植林を行っている。2007年8月から2010年末までに通算7回の植林を行い、ギマラス島ヌエババレンシアと、パナイ島バロタックビエホの2地域で累計87,500本を植樹した。天然環境資源省(DENR)が目標とするマングローブ林の回復面積83,000ヘクタールのうち、LOOBで8.75ヘクタールを寄与した計算となる。
- ▶ 《定着率の改善へ》 ギマラス島ヌエババレンシアの植樹エリアは定着率が80%で順調だといえる。一方でパナイ島バロタックビエホの植樹エリアは、害虫貝の被害があり定着率が40%となっていたが、比較調査により、定着率の高い砂地を特定することができたので、次回の植樹からは定着率のアップが期待できるだろう。

(3-1-C) カラフナンごみ投棄場周辺住民支援事業 <http://www.loobinc.com/sm01.html>

自然派石鹸で有名なLUSH JAPANの「チャリティポット」から助成を頂きました。



4年目となるイロイロ市カラフナンごみ投棄場での活動です。「大人の生計支援」と「子どもへの教育活動」の拠点となるよう、ラーニングセンター(LC)の第2スペースを建設しました。

- ▶ 《裁縫プロジェクトの引っ越し》 2010年4月に第2期スペースに着工。その後、裁縫プロジェクトがLC第1期スペースに引っ越してきた。水田に囲まれたLCは風通しがよく、作業もはかどるようだ。また10月から、元の作業場を一般向けのショールームにするための改修工事を行った。このショールームを拠点として、LOOBの発注だけでなく地元の顧客にむけたマーケティングができるよう期待している。
- ▶ 《託児所/ミニ図書館スタート》 小さな子どもを持つ住民が多いことから、LOOBでは2010年10月から夕方数時間、子どもを預けることができる託児所とミニ図書館を開設した(=チャイルドマインディング活動)。絵本や教材を用いて、子ども達が安全に、かつ学びのある時間を



過ごすことができるようになった。LOOB ボランティアと住民のボランティアが、裁縫メンバーやごみ投棄場で働く人々の子ども達約20～30人ほどケアしている。



- ▶ 《週末教育ボランティア》 LOOBでは2006年から毎週末にごみ投棄場の敷地内で子ども達のためのインフォーマル教育と栄養食配給を実施してきた。LCのおかげで、ごみトラックの騒音や悪臭に影響されることなく、雨天でもセンターでのびのびと活動できるようになった。栄養食も衛生的なスペースで食べることができるようになった。

- ▶ 《その他》 LCは、LOOBが関係する上記のアクティビティ以外にも、住民組織の会合や他団体によるメディカルミッション等に利用されている。ごみ投棄場で働く人々にとってシンボリックな社会活動の拠点となった。

(3-2) 子ども達への教育・医療支援

(3-2-A) 子ども教育サポート <http://www.loobinc.com/edu01.html>



フィリピンの小学校の就学率は83%（西ビサヤ地方は75%）、高校の就学率は59%（同53%）しかなく、就学した子どもの6割しか卒業できません。LOOBでは日本の子ども教育サポート会員と前年のチャリティイベントやカレンダー収益から、2010年は82名を支援することができました。教育省（DepEd）の教育パートナーとして以下の支援内容を行いました。

- ▶ 《学資援助》 3地域の低所得者世帯の子ども達82名に対し、学資金を支給。

- ギマラス島ヌエババレンシア町（小学生9名、高校生7名）
- パナイ島ナムコン村（小学生7名、高校生7名、大学生2名）
- イロイロ市カラフナン地区（小学生39名、高校生8名、大学生1名）
- その他の地区（小学生1名、高校生1名）

LOOBは、年2回の礼状作成や家庭訪問を通して、子どもの家庭をモニタリングしている。

- ▶ 《子ども英語アクティビティ》 子ども達の英語力やアートでの表現能力を引き上げるための青少年育成・野外活動。毎週末に日本とフィリピンのボランティア達が10名前後集まって企画～実施～評価までのプロセスを行った。2010年は約40回のアクティビティを実施。

- パナイ島ナムコン村（参加人数20～30名）
- イロイロ市カラフナン地区（参加人数50～60名）

*栄養食の配給も実施。

➤ 《学校給食とオーガニック菜園を通じた食育プロジェクト》

2009年10月から80名を対象に実施した小学校での無料給食事業を、2010年には味の素KKの助成を受けて、200名に拡大した。この事業は児童への給食配給のほかに、子ども達およびその保護者、教師への食育セミナー活動を通して、地域全体の食への意識を高めていくことを目的とする。給食では、「食事のマナー」、「衛生面(手洗い、歯磨き)」、「栄養と消化(食べ物を良くかむこと)」の3つに重点を置いたレクチャーを毎日行った。また通年で8回のセミナー(児童&保護者対象)、食堂の衛生改善、オーガニック菜園など包括的な食育を行った。



- 《ピアニカ教室》 2010年7月から約6か月の間、鍵盤ハーモニカを寄贈した2つの小学校で、現地日本人&フィリピン人ボランティアが週1回音楽の授業を担当しました。音楽を専攻していたボランティアのおかげで、子どもたちがドレミを覚え、たくさんの曲を弾ける用になり、地域のクリスマスパーティで立派な演奏を披露した。

(3-2-B) 子ども医療サポート <http://www.loobinc.com/med01.html>

- 《アナローズちゃん》 左目の角膜損傷で半失明となった女兒に対して、LOOBが治療費を負担した。手術は実施しないことになったので、これで支援終了。
- 《アンヘリトくん》 世界の義足メーカーである中村ブレイスが竹の彼に竹の義足を制作する試みがNHKの番組で放映された。竹の義足は見事成功したので、LOOBがこの構想を受け継いで、竹義足を希望する現地の子ども達に助成金を支給することになった。進行中のプロジェクトのため、詳細はHPより参照のこと。



(3-3) 困難な状況にある地域・世帯への物資支援

(3-3-A) 物資・衣類寄贈 <http://loobinc.com/dn01.html>

- 日本の支援者から頂いた物資を、現地の必要な個人/組織に贈る活動である。2010年の物資(衣類、楽器、玩具、生活用品など)の寄贈先は次の通り。
- ごみ投棄場のウェストピッカーズ住民組織(UCLA)
 - イロイロ市都市貧困者の会(KAISOG)
 - イロイロ市障害者協会(ADPI)
 - ドナト・M・ピソン・メモリアル小学校
 - ギマラス島ホールドアカデミー音楽クラブ(楽器)

(3-4) 国際理解のための日本文化・海外文化の普及

(3-4-A) 英語研修 <http://loobinc.com/eng01.html>

- ▶ フィリピン大学(UP)ビサヤのランゲージセンターとの提携事業。英語習得のみならずフィリピン文化や社会問題について理解を深め、さらにフィールドトリップではUPの大学生と意見交換したり、食文化に触れたり、と生のフィリピンを体験した。プログラム参加者には、週末の子ども英語アクティビティのほか、2010年から開始したと平日夕方のチャイルドマインディング活動にボランティアとして参加してもらった。

(3-5) 国際協力および国際交流のための募金活動と広報の実施

(3-5-A) 国際協力イベント&チャリティフリマ

<http://loobinc.com/charity.html>

LOOB JAPANの
国内活動 ①♪

- ▶ LOOB JAPANの日本国内の募金・広報活動として、国際協力イベント&チャリティフリマを実施した。大規模なイベントで企画から準備までをすべて学生・社会人ボランティアの手で実施することができた。LOOBでは、メンバーの善意が直接フィリピンの子どもの教育につながるよう、これらのイベントの純利益を次年度の教育サポートに充てている。

大阪ワンフェス(2月6日～7日): 108,120円



アースデー東京2010(4月17～18日): 120,470円



アースデー神戸(5月22～23日): 45,000円



東京グローフェス(10月2～3日): 76,020円



その他、
北海道フリマ:79,300円、大阪(個人)72,280円
九州フリマ:10,350円、現地フリマ:74,000円

純利益378,378円＝2011年度の教育サポート費に
充当される。

(3-5-B) フェアトレード <http://www.loobinc.com/ft01.html>

- 《UCLAのジュースパック製品》 LOOBのフェアトレード活動は、途上国の社会的立場が弱い人々が作った商品を直接取引し、中間マージンを押さえて、生産者の現金収入を増やす試みである。昨年は、UCLAからのフェアトレード製品の買い取り額が前年比で40%減の、475,710円となった。日本国内のイベントの収益を抜かした日本とフィリピンでの売り上げは53万円ほどとなった。製品の質は向上しているため、もっと効果的に販路を拡大していきたい。特に学生団体などと引き続きコラボして製品の販売を進める予定。

LOOB JAPAN の
国内活動②♪

(3-5-C) 説明会・交流会・広報活動

- 《説明会》 春・夏の現地プログラムの希望者に対し、東京、大阪を中心に計14回の説明会を実施した。
- 《静岡キャンプ》 2010年5月15-16日と11月27-28日に静岡キャンプ(メンバー交流会)を開催し、国内の今後の活動(説明会、報告書作成、定例会など)について話し合いがもった。同キャンプでは、「楽しくなくっちゃボランティアじゃない!」をモットーに紅葉狩りなどメンバー間の交流も促進した。

LOOB JAPAN の
国内活動③♪



(3-5-D) カレンダープロジェクト <http://www.loobinc.com/calendar2010.html>

- 《カレンダー500部完売!》 2011年度のカレンダーは「My Precious Thing」をテーマに、82名の子ども達に大切なことを描いてもらい、その中から優秀な12枚の絵を LOOB カレンダーに納めた。日本のメンバーの多大なご協力により、500部を完売し、計費を差し引いた収益金が329,000円となった。これも日本国内のイベント純利益と同様に、2011年度の子ども教育サポート(27名分)に充てる予定だ。

LOOB JAPAN の
国内活動④♪

(3-6) ニュースレターの発行

- 2010年1月と7月の2回、「LOOBニュースレター」発行。会員に配布するとともに、ホームページ上でPDF版を無料配布した。
-

4. 助成金・受賞実績

- 味の素 KK AIN カプログラム 120万円
- LUSH チャリティポット 50万円

2010年に私たちの活動を支えて下さった全ての方々に心より感謝申し上げます。

LOOBスタッフ&メンバー一同